



一宮市消防本部

応急手当（成人）

を覚えましょう！



応急手当の重要

「急変した傷病者を救命し、社会復帰させるために必要となる一連の行いを『救命の連鎖』といいます。



『救命の連鎖』における最初の3つの輪は、その場に居合わせた、市民の皆さんによって行われることが期待されています。

皆さんは、『救命の連鎖』を支える重要な役割を担っているのです。



心肺蘇生の手順

①反応を確認する

傷病者の耳もとで「大丈夫ですか」または「もしもし」と大声で呼びかけながら、肩を軽くたたき、反応があるかないかをみます。

呼びかけなどに対して目を開けるか、なんらかの返答または目的のあるしぐさがなければ「反応なし」と判断します。



②助けを呼ぶ

反応がなければ、大きな声で「誰か来て！人が倒れています！」と助けを求めます。

- あなたは119番へ通報してください
- あなたはAEDを持ってきてください



救助者が一人の場合や、協力者が誰もいない場合には、次の手順に移る前に、まず自分で119番通することを優先します。



③呼吸の確認

傷病者が「普段どおりの呼吸」をしているかどうかを確認します。

10秒以内で、胸や腹部の上がり下がりを見ます。

心停止が起こった直後には、しゃくりあげるような、途切れ途切れに起きる呼吸がみられることがあります。この呼吸を「死戦期呼吸（あえぎ呼吸）」といいます。「死戦期呼吸（あえぎ呼吸）」は、正常な呼吸（普段どおりの息）ではありません。



④胸骨圧迫

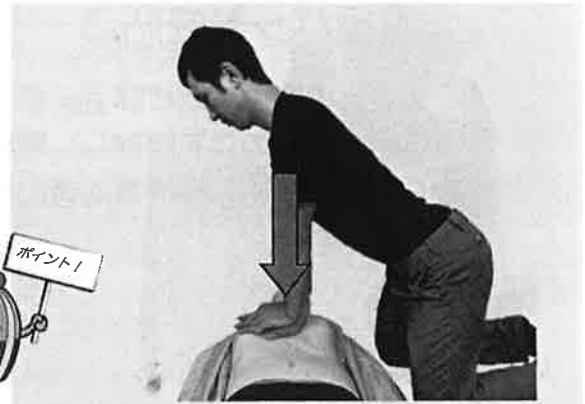
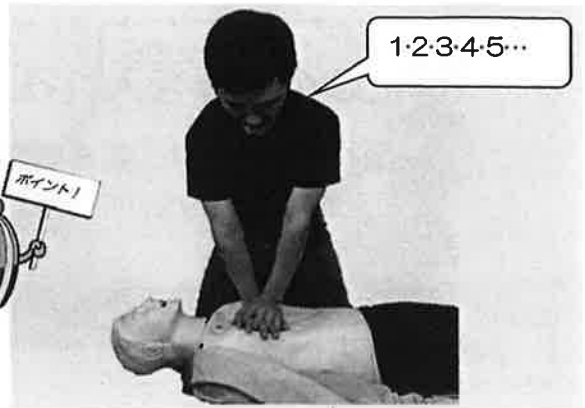
ただちに胸骨圧迫を開始し、全身に血液を送ります。

胸の真ん中を、重ねた両手で「強く・速く・絶え間なく」圧迫します。

胸の真ん中に、片方の手の付け根を置きます。他方の手をその手の上に重ねます。

・肘をまっすぐに伸ばして手の付け根の部分に体重をかけ、傷病者の胸が**5 cm**沈むほど強く圧迫します。

・1分間に少なくとも**100回**の速いテンポで**30回**連続して絶え間なく圧迫します。



AED (自動体外式除細動器)

元気だった人が心疾患、特に心筋梗塞などで突然倒れた場合には、その心臓のリズムは、心室細動によるものが多いことが知られています。

この心室細動を取り除き、心臓のリズムを正常な状態にもどすためには、「AED」を用いた除細動を早期に行うことが必要です。

AEDは、電気ショックを行うための機器です。コンピューターによって自動的に心電図を解析して、電気ショックが必要かどうかを判断し、音声メッセージで電気ショックを指示してくれます。

心停止から除細動までの時間と病院退院率



AEDの使用手順

①AEDの電源を入れる

AEDのふたを開け、電源ボタンを押します。
(ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。)

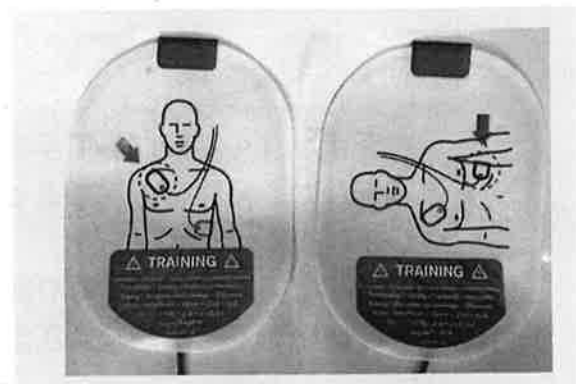
電源を入れたら、以降は音声メッセージとランプに従って操作します。



②電極パッドを貼る

傷病者の衣服を取り除き、胸をはだけます。

電極パッドの袋を開封し、電極パッドをシールからはがし、粘着面を傷病者の胸部にしっかりと貼り付けます。



機種によっては電極パッドのケーブルをAED本体の差込口(点滅している)に入れるものがあります。



こんな場合は？

- 傷病者の胸が濡れている場合
(濡れている場合は、タオル等でふき取ってから電極パッドを貼ります。)
- 胸に貼り薬がありパッドを貼る際に邪魔になる場合
(貼られている場合ははがして、薬剤をふき取ってから電極パッドを貼ります。)
- 心臓ペースメーカーや埋め込み型の除細動器が埋め込まれている場合
(電極パッドを貼る位置に心臓ペースメーカーや除細動器の出っ張りがあるときは、そこから3cm程度離れたところに電極パッドを貼ります。)



③心電図の解析

電極パッドを貼り付けると「体に触れないでください」などと音声メッセージが流れ、自動的に心電図の解析が始まります。

そのとき、「みなさん、離れて！！」と注意を促し誰も傷病者に触れていないことを確認します。



④電気ショック

AEDが電気ショックを加える必要があると判断すると「ショックが必要です」などの音声メッセージが流れ、自動的に充電が始まります。充電には数秒かかります。

充電が完了すると「ショックボタンを押してください」などの音声メッセージが出て、ショックボタンが点灯し、充電完了の連続音が出ます。

充電が完了したら、「ショックします。みんな離れて！！」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認し、ショックボタンを押します。

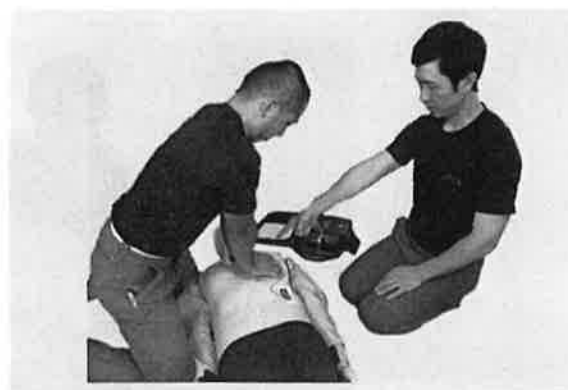


⑤心肺蘇生法を再開

電気ショックが完了すると、「ただちに胸骨圧迫を開始してください」などの音声メッセージが流れますので、これに従って、ただちに胸骨圧迫を再開します。

心肺蘇生法の中止するのは

- ① 救急隊に引き継いだとき
- ② 傷病者が動き出す、うめき声を出す、あるいは正常な呼吸が出現した場合

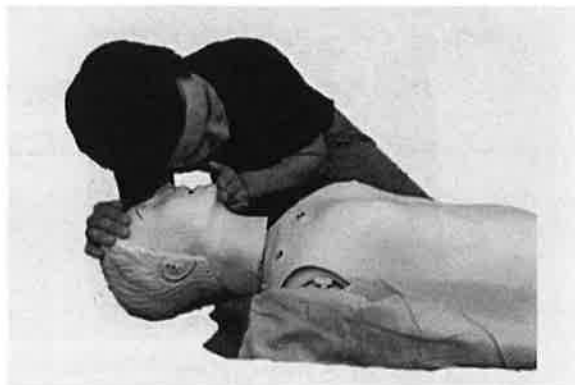


以後は、③心電図解析、④電気ショック、⑤心肺蘇生法の再開の手順で、約2分間おきにくりかえします。

※AEDの機種によっては、このテキストの手順と異なる音声メッセージが流れるものがあります。その場合には、その機種のお知らせに従ってください。

気道の確保（頭部後屈あご先挙上法）

片手を額に当て、もう一方の手の人差指と中指の2本をあごの先（骨のある硬い部分）に当てて、頭を後ろにのけぞらせ（頭部後屈）、あご先を上げます。（あご先挙上）

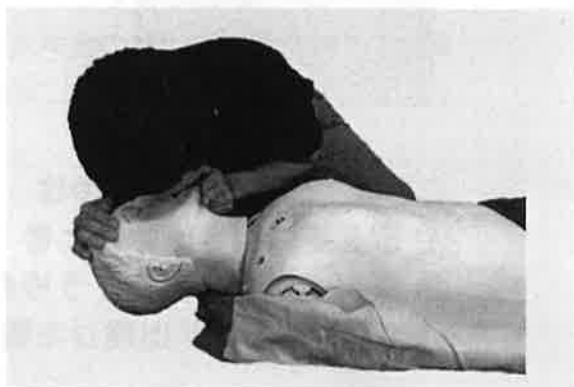


人工呼吸（口対口人工呼吸）

正常な呼吸（普段どおりの息）がなければ、口対口人工呼吸により息を吹き込みます。

気道を確保したまま、額に当てた手の親指と人差指で傷病者の鼻をつまみます。

口を大きく開けて傷病者の口を覆い、空気がもれないようにして、息を約1秒かけて吹き込みます。傷病者の胸が持ち上げるのを確認します。



30回（胸骨圧迫）：2回（人工呼吸）

※ 胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ（30：2のサイクル）を、救急隊に引き継ぐまで絶え間なく続けます。

異物除去

「喉をつかむ仕草、顔色が悪い、声が出ない」などは窒息のサインです。

直ちに119番通報を依頼し、異物除去の対応をします。

腹部突き上げ法

傷病者の後ろにまわります。

傷病者のへその上に握りこぶしを当て、両手で手前上方に突き上げます。

※妊娠している人や1歳未満の乳児には腹部突き上げ法は行わない。



背部叩打法

傷病者の後ろにまわります。

傷病者の肩甲骨の間を手のひらの基部で力強くたたきます。

※共に反応がなくなった場合は、心肺蘇生の手順を開始します。



直接圧迫止血法

・止血の手当を行うときは、感染防止のため血液に直接触れないように、できるだけビニール手袋やビニール袋を使用します。

・きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどを重ねて傷口に当て、その上を手で圧迫します。

・出血を止めるために手足を細い紐や針金で縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあるので行いません。



消防本部からのお願い（PA連携のお知らせ）

PA連携とは、消防自動車（Pumper）と救急車（Ambulance）が救急現場に同時に出場し、連携して救急活動を行うことで、双方の頭文字からPAと呼ばれています。

救急車を呼ぶ為に119番通報した段階において、意識・呼吸が無く早急に応急処置が必要と判断された場合や、傷病者の搬送補助、高速道路・国道で発生した交通事故に対しての安全管理の為に、消防自動車が救急車と同時出場します。

PA連携に出場する消防自動車にはAED（自動体外式除細動器）を積載しています。場所によっては消防自動車が救急車よりも先に救急現場へ到着し、重症と判断された傷病者にいち早く接触し応急処置を行い、傷病者の状態に応じ、AEDを活用した心肺蘇生をはじめとした応急処置を実施し、救命率の向上・市民の安心を確保します。



お問合せは、

一宮市消防本部 Tel72-0119 または、最寄りの消防署・所までどうぞ！

